

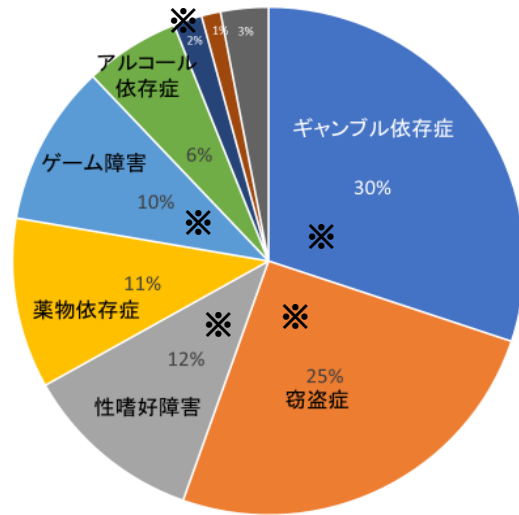
1月 依存症家族勉強会のお知らせ

2018年の当院依存症治療

2018年は150件の依存症の新患相談を受けました。その内訳を下のグラフにしています。アルコール依存症は担当医が複数いますので、当院全体数はもっと多いです。ほかの依存症は当院全体数とみていいです。特徴的な点としては行動の依存(※印)が増えていることです。昨年6月にWHOがゲーム障害を疾患として認定したと発表し、マスコミをにぎわした影響なのか、昨年後半この相談件数が一気に増えました。行動の依存症を診断・治療できる精神科が極端に少ない現状の中で、ギャンブル依存症についてはやっと国の予算でギャンブル依存症等指導者養成研修が始まりました。今年もこれまで同様、依存症治療の経験と質を高めたいと考えています。同時に、この問題で苦しむ家族の援助もこれまで以上に力を入れていくつもりです。

ギャンブル依存症は当院では相談、通院カウンセリング、GA、家族会、ギャンブル問題を考える市民公開講座などの機会を提供してきましたが、今年から毎月、第1土曜日にギャンブル依存症勉強会をすることにしました。患者さんと家族が定期的に理解を深める機会にしてほしいと考えました。

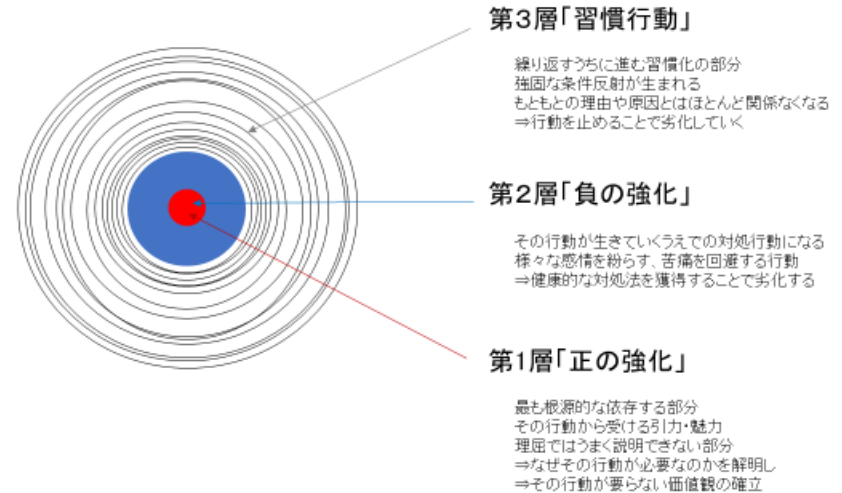
窃盗症は相談、通院カウンセリング、グループミーティングという治療の場があり、毎月第1木曜日にはクレプトマニア勉強会を去年3月から開催しています。



依存行動の3層構造(仮説)

依存行動を修正するためにはまずその行動のメカニズムを解明することが必要です。まだまだ全貌は解明できてはいませんが、わかってきたことも多くあります。残念ながら、その理解がないか浅いために再発をしてしまうことが極めて多いのが現状です。昨年診療を続けながらひらめいたことがあって、この3層構造で説明できないかと仮説を立ててみました。

依存行動をしていない状態を「単に止まっているだけ」と見るか、「回復が進んでいる結果」と見るかというのは判断が難しい問題ですが、この仮説を使うと理解がしやすくなります。依存行動の第3層には何百何千何万回と繰り返すことによって出来上がった習慣と条件反射の層があります。一度獲得するとその神経回路は完全には消えないものの、使わなければ割と早く劣化していきます。廃用性筋萎縮と同じようなメカニズムかなと思っています。依存行動を可能な限り根本的に修正することを考えたとき、この段階をクリアした後、あと2つの層があるということです。一つはその行動が生活上の欠かすことのできない対処行動になっている面です。もう一つはなぜその人がその行動に依存してしまったのかの最も根源的な理由の部分です。(以下、来月で)



1月12日(土)勉強会Bは出張のためお休みします

1月26日(土)AM10時～勉強会A(講義と練習)/依存症研究所研修ホール